

カンキツ「不知火」の加温ハウス栽培による高品質果実の年内出荷

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：北園 邦弥

研究のねらい

「不知火」は、糖度が高く食味が良好なことから、カンキツ産地で急速に栽培面積が増加しているが、露地栽培では、樹勢低下、酸高果の発生、低収量等の問題もみられる。今後「不知火」の安定生産を図るためには、施設栽培の導入が一法であり、そのための技術確立が望まれている。

そこで、1月下旬から加温を開始したハウス内の果実の肥大、品質の推移を調査し、高品質果実の年内出荷の可能性を検討した。

研究の成果

- 1 1月下旬から「不知火」のハウスを最低温度を16℃に設定して加温を開始すると、露地に比べて開花が約2ヶ月、着色は1ヶ月いずれも早まる。
- 2 果実肥大は、加温ハウスで横径、縦径ともに露地よりも終始良好となる。
- 3 ネックの発生率は加温ハウスで高く、露地では低い。また、果面は露地に比べてなめらかで、果形のバラツキも少なくなる。
- 4 11月下旬の収穫時には、糖度(屈折計示度)13度以上、クエン酸含量は1%程度となる。
- 5 1月下旬から「不知火」の加温を開始することにより、年内出荷可能な果実が生産できる。

普及上の留意点

- 1 樹冠内部の果実はやや品質が劣るため、区分採収を行う必要がある。
- 2 摘果不足の樹は、樹勢が低下し小玉果の発生が多くなる。

表1 「不知火」の加温ハウスにおける樹体生育と栽培管理

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
旬	下 上		中	上 中	上 中 下	中 下		中	中 上	下 上	下 上	
樹体生育	発芽		開花	生理落果			着色始			8部着色		
栽培管理	剪定					摘果	枝つり・玉つり					収穫
ビニール被覆	天井・サイドビニール被覆							除去			再被覆	
温度管理	最低 16℃最高 26℃					最低 18℃最高 30℃						
水管理	7日毎 30 t		10日毎 15 t			5~7日毎 20~30 t				10~14日毎 10 t		
施肥量	7.5		7.5			7.5		7.5				10.0

注1) 温度管理の最低は暖房機温度、最高は換気扇温度の設定値

注2) 水管理は10a当りの灌水量、施肥量は10a当りのチッ素施用量(kg)

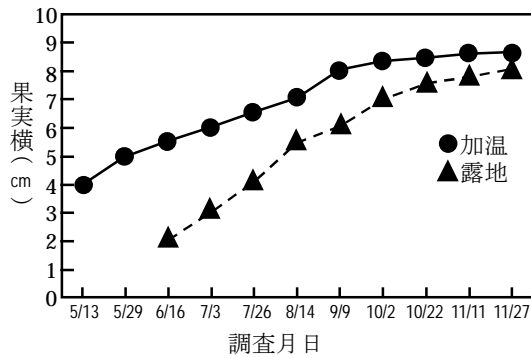


図1 不知火の加温栽培による果実肥大の推移

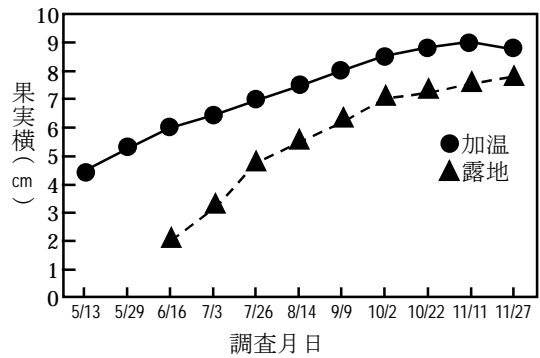


図2 不知火の加温栽培による果実肥大の推移

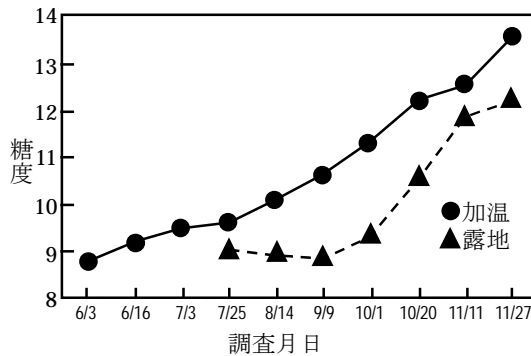


図3 不知火の加温栽培による糖度の推移

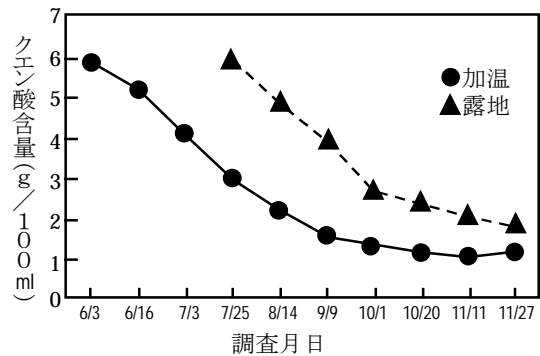


図4 不知火の加温栽培によるクエン酸含量の推移